



SMILE

笑顔あふれる東山中

目黒区立東山中学校

校長 西田 友幸

〒153-0043 東京都目黒区東山1-24-31 TEL 03(3711)8794

FAX 03(3711)8896 <http://www.meguro.ed.jp/meghyjhs/>

★教育目標★

- | | |
|------------------|----------------------|
| 1 心身を鍛え 実践する生徒 | = つよく =
Be Strong |
| 2 自ら進んで 学びとる生徒 | = かしこく =
Be Smart |
| 3 豊かな心をもち 協力する生徒 | = あたたかく =
Be Kind |

立春～人の心の温かさ～

校長 西田 友幸

今年の立春は、2月4日です。現代の日本では、国立天文台の観測によって、「太陽黄経が315度になった瞬間が属する日」を立春としています。もともとは、二十四節気において、春の始まりであり、1年の始まりとされる日です。暦の上のお話ですが、春の訪れはなんだか嬉しい気持ちになります。

今回は、日本看護協会のHPで紹介されている「忘れられない看護エピソード」から「その声は」（斎藤泰臣さん作）を紹介します。



「その声は」

「病院まで遠いよ。最期の会話になるかもしれない」「そんなことない。間に合う」と小声で言い争う男女の声が、師走の電車に揺られていた私の耳に入ってきた。聞き耳を立てるつもりはなかったが、切羽詰まった男女のやり取りと内容が気になった。

夫婦とおぼしき2人は、携帯電話をのぞき込み会話を続けていた。「電話したほうが良いよ」「いや、人の迷惑になる。駅に着いてからでいい」。他の乗客も気になるのか、2人に視線を向けていた。「意識なくても耳は聞こえるって。掛けなさいよ。おとうさん、待っているよ」「電車内だから掛けられないよ」。お互いに感情が高ぶり、少しずつ声が大きくなっていた。携帯電話の向こう側で、息を引き取ろうとしている父親がいて、臨終の場に間に合わない状況にあるということは、その場の誰しもが理解できた。

緩和ケア病棟に勤務する私にとっては、静観できない場面であった。病棟では家族から患者への最期の声掛けを、後悔がないように気持ちを伝えることを促してきた。躊躇しながらも席を立ち、2人に近付こうかとした時、「電話、掛けたほうがいいですよ」と2人の正面に座っていた女性が声を掛けた。近くにいた乗客も見守りながら頷いている。背中を押されたように男性が電話をかける。

「お袋、親父の耳元に携帯電話を置いてくれ」。電車内に声が響く。「親父、親父が一生懸命働いてくれたから、俺たちは腹一杯に飯が食えて、少しもひもじい思いしなかったよ。心配しないでいいから。本当に、本当にありがとうございます」。静まり返る電車内で嗚咽を懸命に抑える男性。苦情を言う者などいもしなかった。

2人は何度も乗客に頭を下げながら、目的の駅で降りていった。電車内に師走の喧騒と冷気が入り込む。しかし、言葉にはできない胸の温かさを私は感じていた。あの場にいた誰もが、まさに「看護」をしていた。そして誰もが胸の温かさと同様に感じていただろう、「その声は届いている」と。

このエピソードは2020年に投稿されたものです。実は、私の父親は2021年1月に亡くなったのですが、当時はコロナ禍で正月に帰省することができない時期でした。急変の知らせがあったのが、ちょうど8日の校長会の最中でその電話にも出ることができませんでした。このエピソードはちょうど父親が緩和ケアに切り替えようとしていた時期と重なっているので、とても心に響きました。

東山中生にも、文中の「掛けたほうがいいですよ。」という女性のような心の温かさを伝えられる素敵な人に成長して欲しいと願っています。

～展示会が行われました～

1月9日（金）～10日（土）の学校公開期間には展示会も行われました。たくさんの保護者の方にご来校いただきありがとうございました。

冬休み明けの登校日初日に準備を行いました。準備の段階から活気があり、各々が自分の役割を全うしていました。見学に関しては、日常ではなかなか見ることのできない他学年の作品や、部活動の作品を興味深そうに見ている生徒たちの姿が印象的でした。展示会後は生徒アンケートを行い、優秀賞も選ばれました。

展示会優秀賞

1年 美術「陶芸」



2年 家庭科「刺繡・トートバッグ」



3年 美術「スクラッチペインティング」



部活動：技術工作部

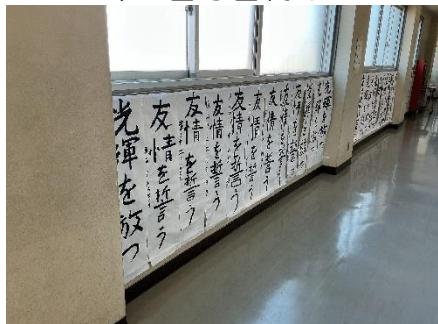


展示品は全29種と非常に多いものでした。優秀賞以外にも見ごたえのある作品ばかりでしたので、ごく一部ではありますか紹介します。

3年 修学旅行



2年 書写書初め



1年 探求発表

